

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワークの理論と方法(共通)Ⅱ(DB208)			担当教員	丸山 貴志		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この科目では、ディプロマポリシーに照らし、学士課程カリキュラムに沿って専門的知識・技能を習得し、それらを国際社会、及び社会生活における様々な課題に適用して解決を図ることができることを目的とする。 ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解するとともに、コミュニティワークの概要とその展開について理解する。またソーシャルワークの記録とそれに係る知識・技術について学ぶ。ソーシャルワーク実習の履修を予定する学生にとっては、ソーシャルワーク演習やその他の科目とともに実習における相談支援のかかわりや支援計画作成の理論的基礎を理解することが必要となる。							①④⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ソーシャルワークの過程を説明できる。 ソーシャルワークの過程に関わる基本的用語を説明できる				定期試験 小テスト 定期試験 小テスト	20% 10% 30% 10%	
情報収集、分析力	事例を、エコマップやジェノグラムを用いて表現できる				定期試験	10%	
コミュニケーション力	利用者主体の支援計画のためのアセスメントを説明することができる				課題レポート	5%	
協働・課題解決力	個人またはグループでの活動に参加できる				小テスト	10%	
多様性理解力	利用者主体の支援を具体的に説明できる				課題レポート	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>毎回復習小テストを行う(30%)。授業を復習し、ポートフォリオによる小テストを提出すること。課題レポートの詳細は授業において提示する。課題において「利用者主体」を尊重できているか、自分の考えを論理的にわかりやすく展開したものとなっているかを評価する。文字数不足、誤字・脱字は減点の対象とする(10%)。小テスト、課題レポートのフィードバックを授業内で行う。定期試験では、ソーシャルワークの過程やソーシャルワークに関わる基本的用語の理解の程度を評価する。エコマップ、ジェノグラムの表現技能を評価する(60%)。不適切な授業態度(教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯等の使用、居眠り等)は発覚した場合、減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。ソーシャルワークの過程について展開を系統立てて学ぶとともにコミュニティワーク、ソーシャルワークの記録について知識を深める。教科書及び配布資料を用い、講義を中心とするが、学生が相互に説明をしたり、意見を交換したりするような個人またはグループでの活動を取り入れる。							
教科書・参考書							
<p>教科書：ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『最新・社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座・12 ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』中央法規出版</p> <p>参考書：特に指定しない</p> <p>指定図書：木下大生、藤田孝典(2015)『知りたい!ソーシャルワーカーの仕事(岩波ブックレット)』、岩波書店。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業内で行う個人またはグループでの活動には積極的に参加すること。さらに、社会福祉関連の行事やボランティア活動に参加したり、関連する映画、番組、図書、新聞などを見たり読んだりして、関心の幅を広げることを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	オリエンテーション。科目の目標、進め方、テーマを理解する。「ソーシャルワーク」とは何か考え、学ぶ。	ソーシャルワークとは何か考える 授業の進め方を確認する
2	<u>ソーシャルワークの過程</u> (1)	ソーシャルワークの展開過程の流れについて学ぶ。ケースの発見について学ぶ。	予習として、第1章第6節第2章第1節を読む。展開過程を示す用語を復習する
3	<u>ソーシャルワークの過程</u> (2) 受理面接(インテーク)	受理面接(インテーク)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ。「クライアントになる」ことを考え、学ぶ。	予習として、第2章第2節を読む
4	<u>ソーシャルワークの過程</u> (3) 受理面接(インテーク)	問題把握、ニーズについて考え、学ぶ。相談援助における契約を学ぶ。	予習として、第2章第2節を読む。ソーシャルワーカーの役割について復習する
5	<u>ソーシャルワークの過程</u> (4) 事前評価(アセスメント)	事前評価(アセスメント)の意義、目的、方法、留意点について学ぶ。	予習として、第3章第1節、第2節を読む
6	<u>ソーシャルワークの過程</u> (5) 事前評価(アセスメント)	アセスメントの視点、活用される技術を学ぶ。	予習として、第3章第2節、第3節を読む
7	<u>ソーシャルワークの過程</u> (6) 支援計画 (プランニング)	支援計画 (プランニング) の意義、目的、方法、留意点などについて学ぶ。支援標的、目的設定について考える。	予習として、第4章を読む。 復習としてアセスメントから支援の方針を立てる
8	<u>ソーシャルワークの過程</u> (7) 支援計画 (プランニング)	介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者総合支援法によるサービス利用計画について学ぶ。	予習として、第4章を読む
9	<u>ソーシャルワークの過程</u> (8) 支援の実施、介入	介入(インターベンション)の視点、活用される技術を学ぶ。	予習として、第5章を読む。 活用される技術について復習する
10	<u>ソーシャルワークの過程</u> (9) 経過観察 (モニタリング)	支援の実施、経過観察(モニタリング)、再アセスメント、効果測定について学ぶ。	予習として、第5章第2節を読む
11	<u>ソーシャルワークの過程</u> (10) 支援の終結と事後評価	支援の終結と事後評価の目的、方法、留意点について学ぶ。	予習として、第5章第3節を読む
12	<u>コミュニティワーク</u> (1)	コミュニティワークの意義と目的について学ぶ。	予習として、第12章第1節を読む
13	<u>コミュニティワーク</u> (2)	コミュニティワークの展開について学ぶ。	予習として第12章第2節第3節を読む
14	<u>ソーシャルワークの記録</u>	記録の意義と必要性、技術、記録の保存について学ぶ。	予習として、第9章を読む。 復習として記録についての理解を確認する
15	まとめ	ソーシャルワーク過程と各過程の意義、目的、方法、留意点を理解する。	全体を振り返り、ソーシャルワークの過程や関わる専門用語を復習する
16	定期試験		